

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	20	実施計画番号	89	
事務事業名	外傷予防による安全安心なまちづくり		事業開始年度	
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業		
背景や経緯等	市セーフコミュニティ推進計画の優先課題となっている交通事故予防対策として、高齢者世帯を訪問して反射材の普及啓発を行っている。			
事務事業の目的	交通死亡事故の犠牲者は歩行中の高齢者に多いことから、反射材の普及啓発を行う。			
実施状況	交通安全母の会、町内会、十和田警察署等と連携し、高齢者宅を訪問し、反射材の普及啓発を行っている。			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	3	3	3
	人件費(千円)	216	216	216
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
非常勤職員	人件費(千円)	0		

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	5	5	5
うち一般財源	5	5	5
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	訪問した高齢者の世帯数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	訪問件数	件	1,175	1,289	1,300	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
成果指標	成果指標名①	反射材の利用者数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	市民アンケート	%	目標値		70	70
			実績値		57	
			達成度(%)		81%	
	成果指標名②	交通死亡事故による歩行中の高齢者数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
十和田警察署交通事故概況	人	目標値	0	0	0	
		実績値	2	0		
		達成度(%)	#DIV/0!	#DIV/0!		

十和田市事務事業評価シート

整理No	20
計画No	89

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 高齢者自ら反射材の効果を認識し、歩行中の事故予防に役立てることで、交通事故の減少につながるため事業実施は妥当である。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 反射材の有効性は認識されている。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 事業を継続していくための交通安全母の会、町内会、警察署等と連携して効率を図っている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 毎年、訪問する地域を決めて実施している。そのため、訪問していない地域では、公民館主催の大学で呼びかけたり、在宅介護支援センターに注意喚起を依頼したりしてカバーしている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
年々高齢化率が高くなる中で、交通死亡事故につながりやすい歩行中の高齢者の安全対策は、安全・安心なまちづくりを目指す上で重要である。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果
警察署との連携、市民との協働を柱に、引き続き高齢者に対して反射材の普及啓発を図るとともに、今後は反射材の購入先も紹介していく。